

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3511		
科目名	復旧・復興論		
担当教員	山下 博之		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 4		
講義室	1502	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP4-I〔理論力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■CRコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 E1 学識と専門技能(55%) I1 理解・分析と読解（35%） I2 量的分析（5%） I3 情報分析（5%）		
教員の実務経験	2009年から2015年にかけて消防庁所管の関係団体における研究員として、国、地方自治体の防災政策に関する調査、研究業務に従事してきました。業務を通じて国、地方の防災行政に関わった中で得られた実務上の経験や知見を活かし、本講義を展開していきます（第1回～第15回）。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	災害が発生した後、避難行動や救援活動といった応急対応期が一段落すると、災害対策は復旧期、復興期へと移行することになる。復旧期には生活物資の支援や、電気・ガス・水道・通信などのライフライン復旧、交通機関の復旧など様々な復旧活動が必要となる。さらに時間の経過とともに、被災地全体の復興に向けて総合的な復興対策が必要となる。学校や職場の再建や雇用の充実、住宅の再建などまちづくりによる復興政策の全体を、法制度や社会政策の観点から考察し、理解を深めることを目標とする。 ※授業形態は講義形式により行います。 なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 復旧・復興プロセス、ライフラインの復旧、生活再建支援、復興まちづくり、コミュニティ再建、産業再建、原発事故		
授業の趣旨	■副題 巨大災害で被災した地域の復旧・復興の取り組み及び復旧・復興に携わる人々が直面する多様な問題について学ぶ ■授業の目的 ・災害の復旧・復興プロセスの各局面で実施される取り組みや問題についての学識を深めること。 ・災害の復旧・復興プロセスの各局面で実施される取り組みや問題について自分なりの意見を表現することができるようになること。 ■授業のポイント 災害により著しく被害を受けた地域は、一体どのように復興していくのでしょうか。政府、自治体は被災地を復興するためにどのような政策手段をどのように決定していくのでしょうか。また、望ましい復興のあり方あるいはそのための政策手段はどのようなものなのでしょうか。本講義で検討していくのは、被災地の復旧・復興に関するこうした一連の問題です。 特に、しばしば復旧・復興事業の遂行に遅れが生じるのは、地籍、コミュニティなど土地に由来する問題や、予算の配分をめぐる国レベルの問題など、関係するステイクホルダーの思惑や利害が複雑に絡み合っているためでもあります。本講義では、現に復興の進む東日本大震災被災地の事例をもとに、復旧・復興の過程でどのような問題が生じ、それがどのように克服されたのかを考えていきます。		
総合到達目標	■災害の復旧・復興プロセスの各局面で実施される取り組みについての学識を深めるため、 ・被災した地域の復旧・復興の各段階で実施される政府・地方自治体の施策を列挙し、説明することができる（第2回～第11回）。 ・復旧・復興の各段階で実施される施策の基盤となっている法令について説明することができる（第2回～第11		

	回)。 ■災害の復旧・復興プロセスの各局面で実施される取り組みや問題について自分なりの意見を表現することができるようになること。 ・復旧・復興の各段階で被災地の住民や自治体職員が直面する困難や苦勞を挙げ、説明することができる(第7回～第14回)。 ・被災地の住民や自治体職員が直面する困難や苦勞について問題意識を持ち共感することができる(第7回～第14回)。 ・被災地の住民や自治体職員が直面する困難や苦勞を政策課題として捉え、その解決策を考えることができる(第7回～第14回)。										
成績評価方法	■小テスト3回(30%)：適用ルーブリックI1 (評価の観点) 該当回の授業で扱った復旧・復興に関わる法制度や施策、問題に関する理解度を評価します。 (フィードバック方法) 翌週の授業で解説を行います。 ■リアクションペーパー4回(20%)：適用ルーブリックE1・I1 (評価の観点) 該当回の授業で扱った復旧・復興に関わる法制度や施策、問題について十分理解した上で、それらを論理的、客観的に考察し、自分なりの考えを表現することができかどうかを評価します。 (フィードバック方法) 翌週の授業で解説を行います。 ■期末レポート1回(50%)：適用ルーブリックE1・I1・I2・I3 (評価の観点) 該当回の授業で扱った復旧・復興に関わる法制度や施策、問題について十分理解した上で、それらを論理的、客観的に考察し、自分なりの考えを表現することができかどうかを評価します。 (フィードバック方法) 後日ポータルに模範解答を提示します										
履修条件	特にありません。										
履修上の注意点	・授業の進行を妨害し、他の受講生の迷惑になるような行為が確認された場合には退席してもらうことがあるので、履修者はこの点を十分に理解した上で履修してください。 ・各授業の内容については、履修者の興味や理解度等に応じて適宜変更することもあるので、留意してください。										
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ① 授業テーマ 「復旧・復興論」では何をどう学ぶか？ ② 授業概要 ・本講座の目標や各授業の内容、スケジュール、学習方法や参考資料等について説明します(E1)。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は本講座の全体像を把握し、自ら授業の準備を行えるようになる。 ③ 予習(60分) 本講座についてシラバスを通読しておく。 ④ 復習(180分) シラバスをもとに、本講座についての自分の学習計画を立てる。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ① 授業テーマ 復旧・復興とは何か？復旧・復興のテリトリーとプロセス ② 授業概要 ・本授業では、災害発生後の「復旧」及び「復興」の概念、また復旧・復興プロセスについてを検討していきます(E1,I1)。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は「復旧」及び「復興」の概念、また復旧・復興プロセスについて説明することができるようになる。 ③ 予習(120分) 国の防災基本計画が想定している地方自治体における復旧・復興の取組の内容について確認し、授業ノートに書き加える。 ④ 復習(120分) ・授業ノートの整理。 ・東日本大震災の被災地で行われている復旧・復興の取り組みについて確認し、授業ノートに書き加える。。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ① 授業テーマ 災害復旧(1) 供給系ライフラインの復旧 ② 授業概要 ・本授業では、電気、ガス、水道等の供給系ライフラインが被る災害被害や復旧方法、復旧過程で生じる課題を、東日本大震災を事例に検討していきます(E1,I1)。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は供給系ライフラインが被る災害被害や復旧方法、復旧過程で生じる課題について説明できるようになる。 ③ 予習(120分) 『東日本大震災からの復興状況と取組』(復興庁、2018年)をもとに、供給系ライフラインの復旧の経過について確認し、ノートに整理しておく。 ④ 復習(120分) ・授業ノートの整理。 ・授業で扱わなかった通信系ライフラインの代表として、東日本大震災における電話、携帯電話の復旧状況がどのようなものだったかを調べ、授業ノートに書き加える。 </td></tr> <tr> <td>4</td><td> ① 授業テーマ 災害復旧(2) 交通系ライフラインの復旧 ② 授業概要 ・本授業では、道路、鉄道等の交通系ライフラインが被る災害被害や復旧方法、復旧の過程で生じる課題を東日本大震災を事例に検討していきます(E1,I1)。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・本授業により受講者は交通系ライフラインが被る災害被害や復旧方法、復旧過程で生じる課題について説明 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	① 授業テーマ 「復旧・復興論」では何をどう学ぶか？ ② 授業概要 ・本講座の目標や各授業の内容、スケジュール、学習方法や参考資料等について説明します(E1)。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は本講座の全体像を把握し、自ら授業の準備を行えるようになる。 ③ 予習(60分) 本講座についてシラバスを通読しておく。 ④ 復習(180分) シラバスをもとに、本講座についての自分の学習計画を立てる。	2	① 授業テーマ 復旧・復興とは何か？復旧・復興のテリトリーとプロセス ② 授業概要 ・本授業では、災害発生後の「復旧」及び「復興」の概念、また復旧・復興プロセスについてを検討していきます(E1,I1)。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は「復旧」及び「復興」の概念、また復旧・復興プロセスについて説明することができるようになる。 ③ 予習(120分) 国の防災基本計画が想定している地方自治体における復旧・復興の取組の内容について確認し、授業ノートに書き加える。 ④ 復習(120分) ・授業ノートの整理。 ・東日本大震災の被災地で行われている復旧・復興の取り組みについて確認し、授業ノートに書き加える。。	3	① 授業テーマ 災害復旧(1) 供給系ライフラインの復旧 ② 授業概要 ・本授業では、電気、ガス、水道等の供給系ライフラインが被る災害被害や復旧方法、復旧過程で生じる課題を、東日本大震災を事例に検討していきます(E1,I1)。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は供給系ライフラインが被る災害被害や復旧方法、復旧過程で生じる課題について説明できるようになる。 ③ 予習(120分) 『東日本大震災からの復興状況と取組』(復興庁、2018年)をもとに、供給系ライフラインの復旧の経過について確認し、ノートに整理しておく。 ④ 復習(120分) ・授業ノートの整理。 ・授業で扱わなかった通信系ライフラインの代表として、東日本大震災における電話、携帯電話の復旧状況がどのようなものだったかを調べ、授業ノートに書き加える。	4	① 授業テーマ 災害復旧(2) 交通系ライフラインの復旧 ② 授業概要 ・本授業では、道路、鉄道等の交通系ライフラインが被る災害被害や復旧方法、復旧の過程で生じる課題を東日本大震災を事例に検討していきます(E1,I1)。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・本授業により受講者は交通系ライフラインが被る災害被害や復旧方法、復旧過程で生じる課題について説明
回	内容										
1	① 授業テーマ 「復旧・復興論」では何をどう学ぶか？ ② 授業概要 ・本講座の目標や各授業の内容、スケジュール、学習方法や参考資料等について説明します(E1)。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は本講座の全体像を把握し、自ら授業の準備を行えるようになる。 ③ 予習(60分) 本講座についてシラバスを通読しておく。 ④ 復習(180分) シラバスをもとに、本講座についての自分の学習計画を立てる。										
2	① 授業テーマ 復旧・復興とは何か？復旧・復興のテリトリーとプロセス ② 授業概要 ・本授業では、災害発生後の「復旧」及び「復興」の概念、また復旧・復興プロセスについてを検討していきます(E1,I1)。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は「復旧」及び「復興」の概念、また復旧・復興プロセスについて説明することができるようになる。 ③ 予習(120分) 国の防災基本計画が想定している地方自治体における復旧・復興の取組の内容について確認し、授業ノートに書き加える。 ④ 復習(120分) ・授業ノートの整理。 ・東日本大震災の被災地で行われている復旧・復興の取り組みについて確認し、授業ノートに書き加える。。										
3	① 授業テーマ 災害復旧(1) 供給系ライフラインの復旧 ② 授業概要 ・本授業では、電気、ガス、水道等の供給系ライフラインが被る災害被害や復旧方法、復旧過程で生じる課題を、東日本大震災を事例に検討していきます(E1,I1)。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は供給系ライフラインが被る災害被害や復旧方法、復旧過程で生じる課題について説明できるようになる。 ③ 予習(120分) 『東日本大震災からの復興状況と取組』(復興庁、2018年)をもとに、供給系ライフラインの復旧の経過について確認し、ノートに整理しておく。 ④ 復習(120分) ・授業ノートの整理。 ・授業で扱わなかった通信系ライフラインの代表として、東日本大震災における電話、携帯電話の復旧状況がどのようなものだったかを調べ、授業ノートに書き加える。										
4	① 授業テーマ 災害復旧(2) 交通系ライフラインの復旧 ② 授業概要 ・本授業では、道路、鉄道等の交通系ライフラインが被る災害被害や復旧方法、復旧の過程で生じる課題を東日本大震災を事例に検討していきます(E1,I1)。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・本授業により受講者は交通系ライフラインが被る災害被害や復旧方法、復旧過程で生じる課題について説明										

	できるようになる。 ③ 予習（120分） 『東日本大震災からの復興状況と取組』（復興庁、2018年）をもとに、交通系ライフラインの復旧の経過について確認し、ノートに整理しておく。 ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理。 ・熊本地震や西日本豪雨での交通系ライフラインの復旧状況について調べ、ノートに書き加える。
5	① 授業テーマ 復興準備（1）避難所と仮設住宅 ② 授業概要 ・本授業では、災害の被災者が一時的に過ごす避難所と仮設住宅の種類や課題について検討していきます（E1,I1）。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は、災害の被災者が一時的に過ごす避難所と仮設住宅の種類や課題について説明できるようになる。 ③ 予習（120分） 災害救助法で避難所と応急仮設住宅の設置基準がどのように規定されているかを調べ、授業ノートに書き加える。 ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理。 ・熊本地震、西日本豪雨の主だった被災地の避難所の閉鎖状況と仮設住宅設置状況を調べ、授業ノートに書き加える。
6	① 授業テーマ 復興準備（2）災害廃棄物と処理の問題 ② 授業概要 ・本授業では、災害廃棄物の種類、廃棄物処理の前提となる法制度、廃棄物処理を実施する過程で生じる課題について、主に東日本大震災を事例に検討していきます（E1,I1）。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・本授業により受講者は災害廃棄物の種類、その処理に関わる法制度、処理過程で生じる課題について説明できるようになる。 ③ 予習（120分） ・映像資料「災害廃棄物処理～東日本大震災の場合～」（約7分）を視聴する。 （環境省ホームページ http://kouikishori.env.go.jp/document_video/） ・環境省（2016年）『東日本大震災における災害廃棄物処理概要報告書』を読み、東日本大震災で生じた災害廃棄物の種類と量について調べ、授業ノートに書き加える。 ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理。 ・熊本地震と西日本豪雨で生じた災害廃棄物の種類と量を調べ、授業ノートに書き加える。
7	① 授業テーマ 復興準備（3）復興実施体制作りと復興計画の策定 ② 授業概要 ・本授業では、被災した地域の復旧・復興を支える政府、自治体の組織や関係法令、復興計画について検討していきます（E1,I1）。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は復旧・復興を支える政府、自治体の組織や関係法令、復興計画について説明できるようになる。 ③ 予習（120分） 東日本大震災で被災した南三陸町の復興計画がどのようなものか自分なりに特徴をまとめ、授業ノートに書き加える。 ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理。 ・熊本地震と西日本豪雨で被災した自治体の復興計画の特徴を整理し、授業ノートに書き加える。
8	① 授業テーマ 復興事業（1）被災者の住宅再建と課題 ② 授業概要 ・本授業では、災害で住宅を喪失した被災者を支援するための制度とその問題について検討していきます（E1,I1）。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は、災害で住宅を喪失した被災者を支援するための制度とその問題について説明できるようになる。 ③ 予習（120分） 授業で取り上げる雲仙普賢岳噴火（1990年）と北海道南西沖地震（1993年）について調べ、それぞれのどのような災害だったのか授業ノートに書き加える。 ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理。 ・内閣府『被災者に対する各種支援制度の概要』（http://www.bousai.go.jp/taisaku/hisaisyagousei/pdf/kakusyuseido_tsuujuu.pdf）で、授業で取り上げた被災者支援以外に政府、地方自治体がどのような支援を行っているのか調べ、ノートに書き加える。
9	① 授業テーマ 復興事業（2）復興まちづくり ② 授業概要 ・本授業では、巨大災害によって破壊された地域を再建するという「復興まちづくり」に関わる具体的な取り組み及びその課題について、東日本大震災を例に検討していきます（E1,I1）。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は「復興まちづくり」に関わる具体的な取り組み及びその課題について説明できるようになる。 ③ 予習（120分）

	宮城県南三陸町を例に東日本大震災の復興まちづくりがどのように進められているのかを調べ、授業ノートに書き加える（南三陸町ホームページ「東日本大震災からの復興状況」 https://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/index.cfm/6,0,90,html）。 ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理。 ・「復興まちづくりのための事前準備ガイドライン」（http://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_tobou_fr_000036.html）を読み、復興まちづくりの事前準備がどのようなものなのかを授業ノートに書き加える。
10	① 授業テーマ 復興事業（3）産業と地域経済の復興① ② 授業概要 ・本授業では、巨大災害によって生じる経済的な被害がどのようなものなのか、東日本大震災を例に検討していきます（E1,I1）。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は巨大災害によって生じる経済的な被害について説明できるようになる。 ③ 予習（120分） 『平成23年度 水産白書』（http://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/h23_h/trend/index.html）を読み、東日本大震災で漁業関係者が受けた被害を調べ、特徴を授業ノートに書き加える。 ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理。 ・『中小企業白書（2011年版）』（p.26～35）を読み、東日本大震災における企業の被害を調べ、授業ノートに書き加える。
11	① 授業テーマ 復興事業（4）産業と地域経済の復興② ② 授業概要 ・本授業では、巨大災害によって生じた産業や企業の被害に対する事業者の事業継続・再開の取り組みについて、東日本大震災を例に検討していきます（E1,I1）。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は災害被害に対する事業者の事業継続・再開の取り組みについて説明できるようになる。 ③ 予習（120分） 『中小企業白書（2012年版）』（p.41～45）を使って、東日本大震災被災地における企業の事業継続・再開状況を調べ、授業ノートに整理する。 ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理。 ・経済産業省東北経済産業局『復興事例集～被災地復興に向けた事業者の取り組み』（http://www.tohoku.meti.go.jp/somu/topics/pdf/180215_3.pdf）を読み、気付いた点を授業ノートに書き加える。
12	① 授業テーマ 災害復興とコミュニティ（1）福島第一原発事故に関わる被災地の復興① ② 授業概要 ・本授業では、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所爆発事故の概要を確認し、事故発生以降に田村・相双地域の住民に対して発令された避難指示の変遷と課題について検討していきます（E1,I1）。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は原発事故の概要と住民に対する避難指示内容の変遷・課題について説明できるようになる。 ③ 予習（120分） 復興庁『福島復興加速への取組』を読んでおく。 http://www.reconstruction.go.jp/portal/chiiki/hukkoukyoku/fukusima/material/20180226_torikumi-fukusima.pdf ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理。 ・福島県内の市町村の人口の推移を確認し、グラフを作成する。
13	① 授業テーマ 災害復興とコミュニティ（2）福島第一原発事故に関わる被災地の復興② ② 授業概要 ・本授業では、福島第一原発事故で放出した放射性物質の汚染被害に対し、被災した地域の再生に向けて実施されてきた取り組みと課題について検討していきます（E1,I1）。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は原発事故で汚染した地域の再生に向けた取り組みと課題について説明できるようになる。 ③ 予習（120分） 原発事故の被災地の復興の法制度上の基盤となっている「福島県復興再生特別措置法」について調べ、どのような法律か自分なりにわかったことを授業ノートに書き加える ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理。 ・現在、福島県庁が行っている風評・風化対策について調べ、自分なりにわかったことを授業ノートに書き加える。
14	① 授業テーマ 災害復興とコミュニティ（3）人口減少社会における災害復興 ② 授業概要 ・本授業では、高齢化と人口減少という社会変化が「復旧・復興」の取り組みに突き付ける課題と課題の解決策について、東日本大震災を例に検討していきます（E1,I1）。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ・受講者は高齢化と人口減少が「復旧・復興」に突き付ける課題と課題の解決策について説明できるようになる。

	る。 ③ 予習（120分） ・東日本大震災の津波被災地における高齢者人口が震災の前後でどのように推移しているかを調べ、ノートに書き加える。 ④ 復習（120分） ・授業ノートの整理。 ・熊本地震の主な被災地における高齢者人口が震災の前後でどのように推移しているかを調べ、ノートに書き加える。
15	① 授業のテーマ まとめ：何を学んできたか、これからどう学ぶか？ ② 授業概要 ・受講者がこれまでの授業で学んできた点を整理し、これから理解をさらに深めていくべきポイントや、参考資料を把握したうえで、災害対策について自らが今後も自主的に学ぶことができるようにする。 ・担当者の実務経験を踏まえながら説明します。 ③ 予習（120分） これまでのノートと資料の内容を確認する。 ④ 復習（120分） ・これまでのノートと資料に目次をつけるなどして情報を整理する。
関連科目	■総合科目 政治学1（RMGT1139）、政治学2（RMGT1140）、社会学1（RMGT1133）、社会学2（RMGT1134）、経済学1（RMGT1137）、経済学2（RMGT1138） ■専門基幹科目 行政法と行政過程Ⅰ（RMGT2321）、行政法と行政過程Ⅱ（RMGT2322）、地方自治と法（RMGT2361） ■専門展開科目（共通領域科目） 財政学（RMGT3305）、 ■専門展開科目（災害マネジメント領域） 災害と法（RMGT3401）、災害対策論（RMGT3501）、災害情報論（RMGT3502）、自然災害論（RMGT3503）、大規模事故論（RMGT3504）、地域防災論（RMGT3505）、災害史（RMGT3506）
教科書	特にありません（授業でレジュメやプリントを配布します）
参考書・参考URL	上記授業内容の予習・復習部分に記載した文献・資料。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 木曜4限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室またはZoom等で対応します。
研究比率	災害マネジメント70%、パブリックセキュリティ10%、情報セキュリティ10%、グローバルセキュリティ10%

